

まちの価値を高める「まち育て」の実践

株式会社テダソチマ（福島県須賀川市）

2026.3.31

設立の背景と理念

株式会社テダソチマ（以下テダソチマ）は、「まち育て」を逆に読んだ社名が示すとおり、「まちを育てる」という思想を体现するまちづくり会社である。東日本大震災後、復興に向けた取組が進む中で、建物やインフラといったハード整備だけでは地域の活力は生まれないという問題意識から、新しい空間に価値や営みを生み出すソフト面の担い手として設立した。

須賀川市では、震災後に新たな公共施設や拠点整備が進んだ一方で、それらを活かし、人の流れや仕事、挑戦を生み出す仕組みづくりが求められていた。ハードは整いつつあるものの、そこに新たな価値や営みを生み出す主体が必要とされていた。そうした課題に対し、テダソチマは、現場の状況に応じて迅速に意思決定し、具体的な事業化まで一気通貫で進められる体制として立ち上がった。少人数体制ならではの柔軟さとスピード感を強みに、空き店舗活用や新たな事業創出などを着実に形にしてきた。

現在は、コンパクトな組織体制のもと、外部の専門家や大学研究者とも連携しながら活動を展開している。

テダソチマが掲げるのは、「課題を強みに転換する」発想である。空き家や空き店舗、使われなくなった土地や公共空間を単なる課題として捉えるのではなく、可能性を秘めた地域資源として再編集し、経済価値の創出や人のつながりの形成につなげている。こうした積み重ねが、まちの価値を高めてきている。

主な事業内容

① 須賀川南部地区エリアプラットフォームの運営

テダソチマは、行政、民間企業、地域住民、金融機関、大学等が参画し、地域の将来像や取組について協議する組織である「須賀川南部地区エリアプラットフォーム」の事務局を担っている。現在は、2022年から2031年までを対象とした未来ビジョン「みちしるべ」（第3版）を掲げ、年数回の会議や関連する取組を通じて実践を進めている。



須賀川エリプラ全体会議

② "空き家からつなぐ"すかがわ廃材プロジェクトの実施

空き家の増加という課題に対し、解体後に発生する廃材を回収し、アップサイクル商品として販売する実証的な取組を行っている。その販売収益を解体費用の一部に充てる仕組みの可能性を検証するものである。今年度は1棟を解体し、展示会やワークショップ、解体相談会を開催するなど、新たな空き家対策の可能性を探っている。



"空き家からつなぐ"すかがわ廃材プロジェクト

③ 二地域居住プロジェクトの推進

須賀川市に二地域居住者を呼び込むことを目的に、関係団体や民間企業と連携し、実証的な取組を進めている。地域内の事業者の参画を促し、地域で働く機会を創出することで、滞在者の受け入れ環境を整備している。あわせて、短期滞在の体験プログラムを実施し、アンケート等を通じてデータを蓄積しながら、今後の展開につなげている。

④ コワーキングスペース・シェアオフィスの運営

空き店舗をリノベーションし、コワーキングスペースやシェアオフィスを運営している。個人事業主等が拠点として利用できる環境を整え、まちなかでの事業活動を支えている。

エリア戦略とまちの未来像

須賀川市には、市民交流センター「tette（テッテ）」をはじめとする新たな拠点が整備されている。今後の鍵は、こうした拠点に集まる人の流れを周辺エリアへと波及させ、まちなか全体の活力へとつなげていくことである。

そのためには、点在する拠点同士をつなぐ動線づくりが重要となる。また、移住者や新規事業者が孤立せず、地域と自然に交わることができる環境づくりも欠かせない。エリアマネジメントの視点を持ちながら、人と人が緩やかにつながるコミュニティ形成を目指している。

テダソチマは、行政と民間の間に立ち、公共性と収益性との両立を図りながら、地域全体の価値向上に取り組んでいる。公共空間や遊休資産を経済活動と結びつけることで、地域全体の循環を生み出そうとしている。



シェアスペースSTEPS

今後の展望と連携

代表の大木氏は、これからのまちづくりには「つなぎ役」「ビジネスデザイナー」「クリエイター」という三つの機能が必要だと語る。構想を描くだけでも、実務をこなすだけでも不十分であり、人や資源を結びつけ、新しい価値を設計し、形にしていく総合力が求められるという。

また、組織のあり方についても、固定的な体制ではなく、プロジェクトごとに柔軟にチームを編成するマトリックス型が適していると考えている。さらに、小さな失敗を許容し、挑戦を後押しする組織文化を育ぶことも重要だという。

大学との連携も重要な柱である。須賀川市を実践的な研究フィールドとして位置づけ、学生が実際のプロジェクトに関わる機会を創出する構想が進んでいる。若い世代が地域に関わることで、新たな視点や発想がまちに流れ込むことが期待される。

地域づくりの哲学

テダソチマの活動の根底にあるのは、「恩送り」と「積善」の思想である。地域から受けた恩を次の世代へと送り、小さな善行を積み重ねることで、やがて地域全体の未来を豊かにしていく。その循環を信じる姿勢が、日々の実践を支えている。

まちづくりは、時に孤独な営みでもある。しかし、他地域の団体と連携し、学び合う場を持つことで、挑戦は持続可能なものとなる。テダソチマは、地域内外の多様な主体とつながりながら、須賀川というフィールドで「まち育て」の実験を続けている。

空き家や空き店舗、使われなくなった土地も、見方を変えれば未来の資源である。地域の可能性を再編集し、人の挑戦を後押しする。その取組は、課題を強みに変えるまちづくりの可能性を示している。

まちづくり人(びと)からの メッセージ

株式会社テダソチマ 代表 大木 和彦さん



まちづくりを進める上では、「昔からこうしている」「他の地域はこうしている」といった考えにとらわれすぎず、自分たちがどうしたいのかという思いを持つことが大切だと考えています。そうした意思がないと、議論の場でも流されてしまうことがあります。

一方で、まちづくりは一人で続けていると孤独を感じることもあります。だからこそ、他地域と連携し、学び合える関係が広がっていくことを期待しています。須賀川というフィールドも一つの機会として、互いに行き来しながら、関係が深まっていくことを願っています。

株式会社テダソチマ HP

